

委託事業による調査研究の成果について

(情報学的アプローチによる「情報科」大学入学選抜における評価手法の研究開発(平成28～30年度大学入学選抜改革推進委託事業)、国内における数理・データサイエンス・AIの応用基礎力を習得できると考えられる入学選抜の状況に関する調査研究(令和2年度先導的大学改革推進委託事業))

情報学的アプローチによる「情報科」大学入学選抜における評価手法の研究開発

【背景】

- 高大接続改革を実現するためには、高等学校教育と大学教育の接続面である大学入学選抜において、「学力の3要素」を多面的・総合的に評価し、大学教育における質の高い人材育成につなげていくことが重要であることから、個別大学の入学選抜において、「思考力等」等を十分に把握、評価することが必要
- 個別大学の入学選抜における「思考力等」等の評価を効果的・効率的に推進するため、代表大学と連携大学等の協働により、以下の調査研究を実施し、その成果を発信・普及
 - ① 個別大学の入学選抜改革における課題の調査分析及び分析結果を踏まえた改革の促進方策に関する調査研究
 - ② 次期学習指導要領改訂の方向性等も踏まえた「思考力等」等をより適切に評価する教科・科目横断型・総合型の評価手法等をより適切に評価する面接等の手法に関する研究・開発
- 実施区分のうち、情報分野の評価手法について、大阪大学(代表校)・東京大学・情報処理学会が研究開発

【概要】

- 情報学的なアプローチから新しい大学入学選抜試験の評価方法について検討
- CBTに関する知見(情報科の評価に加え、他教科の評価に対しても活用が期待できることから、CBTシステム及びマニュアルを整備
- 情報科で得られるCBT活用に関する知見を体系的に整理することにより、他教科の評価手法の検討に利用

https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/senbatsu/1412881.htm

国内における数理・データサイエンス・AIの応用基礎力を習得できると考えられる入学選抜の状況に関する調査研究

【背景】

- 「AI戦略2019(令和元年6月11日統合イノベーション戦略推進会議決定)」においては、「データサイエンス・AIを理解し、各専門分野で応用できる人材の育成」が求められているところ、大学入学選抜においても、将来的に各専門分野で数理・データサイエンスの知識を応用できる能力を有した人材を選抜する大学への重点的な支援が求められている。
- 数理・データサイエンス・AIの応用基礎力を習得できると考えられる入学選抜する大学の取組事例を把握し、成果を周知することにより各大学の理解の促進を進め、「AI戦略2019」の目標実現に資することを目的として実施。

【概要】

- アンケート調査により、各大学の取組状況の全体像を把握
- 他大学の参考となる取組を実施していると考えられる大学へ、具体的な実施状況のヒアリング

https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/itaku/1418380.htm